

ただいま

中山千夏

雑記

その 162

日曜日、修善寺へ行ってきました。大瀬なんかに潜りにいくとき通るので、修善寺は馴染みある場所なんだけど、話に行ったのは初めて。「中山千夏さん『私のための原発メモ』」と題する講演会。主催は伊豆市の「新日本婦人の会」。伊東市など他の町からも来てくださった老若(?)で、女女(男性もちらほら)で、市立図書館の小さな視聴覚室はあふれかえった。当コラムの読者が何人もいらしたのは、嬉しかったなあ。伊東在住の友だちもふたり来てくれた。

話上手は怪しい人間?

ひとり前は前にここ(第35回)で話したことがある。友人のなかで最年長のダイバー、富戸在住の笹森京子さんだ。何年ぶりだろう。背骨が少々、具合悪いかでステッキをつけていらしたが、頭しゃっきり、言葉すっきり、これで92歳とはいやはや。なにかでこの講演会を聞きつけて、アツ

シー君を調達してやってきた。彼、宇佐美在住のI君は私の遊び仲間でもある。帰りは便乗させてもらって、大好きなドライブを楽しんだ。車中、I君がさかんに褒めてくれた。「やっぱり話上手だねえ、テーマがテーマだからもっとアレかと思ったんだけど、1時間ぜんぜん退屈しなかった。さすが!」

最近、話がうまい、と褒められることが多い。まさかと思われるだろうが、実は昔、スピーチが大の苦手だった。役でセリフを喋るのは問題ないの。あがったことなんか一度もない。でも、素の自分で演説なんか、とてもじゃないがでなかった。相手は何人もいるのよ。全部違つひとよ。考えてることみんな違つもの。それに向かつてひとりで喋るなんて無理よ!

だから講演の依頼は固く断っていた。そうはいかなくなつたのは、参議院議員をして

からだ。演説や講演は、議員の義務だもの。無理やりするようになった。そうやって、いわば使命感でやっているうちに、慣れたんですね、だんだん苦手ではなくなってきた。原稿は昔からナシ。聴衆の感じを見ながら話すだけ。ウケてくれると我ながら話がうまいくのは、ピン芸人と同じですな。年取ってやつと人見知りが緩和したこともあって、いろいろな地域のいろいろなひとたちと出会うのも、楽しみにになった。

そうなつてからだ、話がうまいと褒められるようになった。嬉しい。しかし複雑な気持ちもする。

怪しい時計

(2010年東京駅前 筆者写す)

